

目 次

「臨床薬理」 第44巻 第2号 2013年3月

原著

- AJG522の日本人健康成人における安全性および
大腸内視鏡検査前処置に対する有効性の検討……………古家 英寿ほか… 53
- 新規DIC治療薬リコモジュリン®の安全対策
—全例調査方式の使用成績調査を中心に—……………二橋 克仁ほか… 61

フォーラム

- 電子的遠隔SDV(RSDV)についての成果と課題
—試行による検証データの提示と実施後のアンケート調査—……………野村 守弘ほか… 71

総説

- 球形吸着炭クレメジン®の薬物相互作用……………小手川 勤ほか… 77

第33回 日本臨床薬理学会学術総会特集・記録

- 目次…………… 85
- 特集「PGxの成果と将来への課題を考える」…………… 87
- 「選択的セロトニン再取り込み阻害薬の臨床効果・副作用予測のためのマーカー」…………… 109
- 「臨床試験の倫理：ダブルスタンダードの解消はなるか」…………… 127
- 「日本版コンパッショネート使用制度の創設をめざして」…………… 149
- 記録「日本薬理学会・日本臨床薬理学会 共催シンポジウム：
遺伝子・組織バンクと医療情報の電子化」…………… 171

REPORT

- 2011年度日本臨床薬理学会海外研修員報告書—その1—……………中野和歌子……………181

- 書評……………濱 敏弘……………108

医薬品情報

- 医薬品・医療機器等安全性情報 No.298, 299…………… 39E

- 投稿規定…………… 43E

おしらせ

- 第34回日本臨床薬理学会学術総会予告(2)…………… 45E
- 第16回臨床薬理専門医試験要項, 第13回認定薬剤師試験要項, 第10回認定CRC試験要項…………… 45E
- 専門医制度委員会からのお知らせ(第15回専門医試験結果, 新規指導医の公表,
新規研修施設・新規研修関連施設の公表)…………… 52E
- 認定薬剤師制度委員会からのお知らせ(第12回認定薬剤師試験結果, 新規指導薬剤師の公表,
新規研修施設の公表)…………… 52E
- 2013年度夏期臨床薬理学講習会 他…………… 53E

第33回 日本臨床薬理学会学術総会特集・記録 目次

特集

「PGx の成果と将来への課題を考える」

- 序文……………越前 宏俊ほか… 87
1. GWAS を用いた副作用リスク因子マーカーの網羅的解析……………黒瀬 光一ほか… 89
 2. 胃癌予防を見据えた *H. pylori* 除菌への PGx の応用……………古田 隆久ほか… 95
 3. 新規医薬品開発におけるゲノム情報利用の現状と課題
—ファーマコゲノミクス関連のコンソーシアム活動を中心に—……………品川 朗…101
 4. PGx に基づく医療を普及させるための DNA サンプル長期保存の課題……………宇山 佳明…106

「選択的セロトニン再取り込み阻害薬の臨床効果・副作用予測のためのマーカー」

- 序文……………下田 和孝ほか…109
1. 新規抗うつ薬の臨床効果・副作用予測のための marker
—血中カテコラミン代謝産物・BDNF 動態を中心に—……………吉村 玲児…110
 2. SSRI の薬物動態がもたらす臨床効果・副作用への影響について……………渡邊 崇ほか…114
 3. ゲノム情報による効果予測 —実臨床での可能性を考えてみる—……………加藤 正樹…117
 4. SSRI の治療反応性を決めるもの……………古郡 規雄…123

「臨床試験の倫理：ダブルスタンダードの解消はなるか」

1. 学術委員会研究倫理小委員会設立の背景と活動……………津谷 喜一郎…127
2. 日本の臨床研究ガバナンス—その歴史と特徴を探る……………田代 志門…131
3. 大学病院における「治験」と「臨床試験」……………小池 竜司…136
4. 臨床研究に関する倫理指針のこれまでとこれから……………森下 典子…141
5. 日本の研究倫理審査 —どこで、何について、何をベースに判断するか—……………笹栗 俊之…145

「日本版コンパッショネート使用制度の創設をめざして」

- 序文……………津谷喜一郎ほか…149
1. コンパッショネート使用制度の世界の現状と基本事項……………寺岡 章雄ほか…153
 2. 製薬業界としてのコンパッショネート使用制度（医薬品アクセス制度）に対する考え方……………桑原 雅明…157
 3. 医療上必要性の高い医薬品のアクセスについて……………宮田 俊男…161
 4. コンパッショネート使用制度に関する法的課題
—適時適切なニーズ対応を可能にする法理論構成をめざして—……………磯部 哲…167

記録

「日本薬理学会・日本臨床薬理学会 共催シンポジウム」

- 遺伝子・組織バンクと医療情報の電子化」……………（座長）笹栗俊之，谷内一彦
座長のまとめ……………笹栗 俊之ほか…171
1. 大規模臨床情報活用による Pharmacoepidemiology の実際……………西田 弥生ほか…173
 2. 被災地から最先端創薬を目指して ～東北メディカル・メガバンク機構の挑戦～……………清元 秀泰…175
 3. アカデミアにおけるヒト組織バンクのシステム構築と研究利用……………竹ノ下(中谷) 祥子ほか…177
 4. バイオバンク・医療情報データベースと生命倫理と法……………丸山 英二…179